



付 馨

2012年4月に鳥取県「がんばる地域プラン事業」(以下「地域プラン」と略す)審査会委員の1人として依頼され、農産品を中心とした地域振興プランを審査することをきっかけに、県内の農業の現状を少しの

若葉台からの風

鳥取環境大学経営学部

ぞくことができた。この支援事業を通じて、地域振興には産学官農一体の真の連携の重要性をあらためて認識できた。「地域プラン」の初



ブロッコリーの圃場を視察する委員ら

真の産学官農連携で地域を生かそう

年度において、市町村、農協から八つのプランが申請されたが、支援事業の趣旨と予算の効果的な活用などの観点から、最終的に六つのプランが認定された。プランの中身はさまざまだったが、最終目標は三つ。①農産品の質の向上②現有生産規模の維持と拡大③販路の確保と理解できよう。

この三つの目標を実現するために、主に3種類の対策が考えられている。まず第1に、新品種の開発・導入により質の向上、また、機械設備の導入により生産力の向上を図る。第2に新規就農者の誘致・育成により、担い手不足に起因する生産規模の縮小を食い止め、長期的には生産規模の拡大につながる。第3に県内をはじめ、関西圏や関東圏まで地元農産品のPR活動を行う。この中でも第2の対策は最も喫緊のようである。

それぞれがすばらしいプランで、補助金や地元の自然資源を活用し、機械設備・新技術の導入や後継者の育成などの重要性は十分認識されている。しかし、惜しい点もあった。例えば、担い手の育成やブランド開発、市場の開拓などの課題について農家や地元のみで抱え込みたがる傾向がみえた。これらの分野はもともと農家の専門で

はなかったもので、それぞれ専門家の協力が必要不可欠であろう。そこで、経営の専門家や、農業農村担い手育成機構などの専門機関の意見と協力を得れば、目標がより効率よく実現できるのではないかと指摘を受け、プランの改善が行われた。13年11月末、「地域プラン」の一部、南部町の柿園とJA鳥取西部管内のブロッコリー試験圃場を参観し、また、後継者の育成を含めたプランの進行状況も確認した。補助金の効果を確かめ、県の担当者や審査員たちはひと安心し、今後への期待も膨らんだ。

今回の審査を通じて、鳥取県農業の大きな潜在力を感じている一方で、農業も国際化の波に乗らずにいられない今日、農業の問題は農家だけで乗り越えるのは難しくなりつつあることを実感した。何事も自らで解決することは大切なことであるが、国や地方政府、各分野の専門家、専門機関などに力添えを申し出て、より真の連携を組めば、より力強い農業に育ち、より大きな市場を目指すことができるのではないかと考えられる。みんなの地域なので、みんなの力で地域を生かそう。

(准教授)